

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872000948		
法人名	(株)キュート		
事業所名	グループホームたんぼぼ	ユニット名	(1階)
所在地	〒305-0861 茨城県つくば市谷田部3393-1		
自己評価作成日	令和3年11月30日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和3年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

。利用者が笑顔で過ごせている様子などたんぼぼ通信として発信し、家族に届けて、家族も利用者の日々の様子を知ることが出来る。毎月職員考案の様々なレク、季節を感じられる制作。感染症の予防として、利用者が1日の大半を過ごすホールに、除菌脱臭付空間清浄機を設置している。さらに、災害時や突然の停電に備えて自家発電装置も設置し、緊急時に備えている。コロナ禍で色々なことが制限されてしまったが、全て出来ないとは諦めるのではなくその中でどう向き合うのかを日々模索して職員、利用者が安心安全に過ごせるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設玄関、各ユニットに理念を掲示し、全職員がいつでも確認できるようにしており業務中でも意識し実践できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	つくば市が取り組んでいるよろず相談所の事業所として認知症の方々の理解や支援方法をお伝えできるようにしている。事業所ではキャラバン・メイトの講習を受けた者が数名おり地域住民の勉強会などに参加し認知症の方々の支援方法を伝えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ禍のため行っていない。施設行事のお知らせを地区の回覧板等を利用して頂き参加を呼びかけ、地域の方々との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム長を中心に同地区の区長さん民生委員さん、ご家族を混じり3ヶ月に一度の運営推進会議を行っており、意見交換を行いサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課、地域包括の社会福祉課の担当の方々とは電話だけのやりとりだけでなく市役所へも顔を出し担当者との意見交換も出来ており、協力関係が出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を毎月一度行っている。身体拘束排除に関するマニュアルを作成。やむをえず、身体拘束をする場合、家族に同意を取り経過観察記録と検討記録を作成している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一年に一度高齢者虐待防止の勉強会に参加をしていたが、コロナ禍により中止となっているがケアの内容は記録に残し、虐待が見過ごされないよう配慮している。また職員間でいつでも話し合いができるよう連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍以前は勉強会に参加し学ぶ機会があったが今はない。また現在活用の場面はないが必要があれば支援する用意がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、改定などの重要な説明は利用者や家族の不安や疑問点がないか確認しながら丁寧に説明し、理解・納得を図っている。また疑問や不安が生じた時は随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、意見があれば伝えられるようにしている。又、面会時も気兼ねなく意見が言えるような関係を築いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別な機会は設けていないが意見や提案は、随時聞ける、話せるよう、心がけている。出された意見は反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1の二人一組で行うレクリエーション、係活動で、職員一人一人が責任をもって取り組めるよう、担当制を導入。職員の努力、実績、勤務態度を把握し、責任を持ちながらやりがいを感ぜられるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍なのでリモートで研修が受けられるよう支援した。また、資格取得のため無理のない範囲で仕事をしながら受講できるようにシフト面でも配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会があるが、コロナ禍では以前のように会に出席する機会はなかった。電話連絡等を通じて交流しサービス向上に取り組んだ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の様子を観察し、本人が困っていること、不安に思っていることがあるときは、本人が安心して納得できるまで一緒に考える。得た情報は記録に残し職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族などが困っている事、不安な事、要望などに耳を傾けながら信頼し合える関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、必要とされる支援について十分話し合い、健康に関する事、衣食住、やりたい事、やれることを本人の気持ち等、多方面からアセスメントし、適切なサービスが速やかに行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力、体力に合わせ食事作りや、制作を共に行い利用者からのアイデアも取り入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会が短い時間となってしまったが本人と家族が会える時間を設けている。また、日々の様子を手紙や電話で伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出制限がある中でも、たんぽぽ通信で近況を伝えたり、また、本人直筆の手紙を送ったり、電話で話す等出来る限りの支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動を通じて利用者同士関わっている時もありその様子を見守っている。座席も一人一人の性格の相性を見て座席を決め孤立させないように支援に努めている。また、一人の時間も尊重し、大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になった利用者に対し、これまでの生活や、様子、ケアの工夫等、必要な情報を伝え、離れてしまっても安心安全に生活できるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人はもとより家族の意見も取り入れアセスメントを分析した上でケアに反映させている。その情報は記録に残し職員間で共有している。また、本人らしい生活の場を作れるように支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活歴。絵を書くことが好き。歌が好き。散歩が好きといったこれまでの習慣等を本人や家族から聞いてこれからの暮らしに繋げるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に応じて生活ができるよう本人の思いを共感し支援を行っている。バイタルや、表情、会話、あらゆる面から観察し、少しの変化にも早急に対応出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全員でのミーティングはコロナ禍のため行っていないが、シフトの職員間の情報共有を徹底し申し送りをしながらおこなっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別の記録を活用し情報を共有しより良い介護が出来るような介護計画に活かしている。また、申し送りを毎朝、夕と行い職員間で漏れのないよう利用者の変化にもいち早く対応出来るよう行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院時の同席や家族に変わっての付添い等出来る限り柔軟に対応している。その他のニーズに関しても柔軟に対応するつもりである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において、近くのスーパーへの買い物、地域のお祭といったものには全く参加出来ないながらも天気の良い日の散歩やドライブ。前庭でのゲームや日光浴等、楽しめることもあった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族が希望する医院を受診できている。その都度必要な情報交換を行い支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問時には介護職員は利用者の変化やいつもと違う点を伝え相談している。また訪問時利用者の様子をみた看護師からは受診の勧めをアドバイスしてもらい、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から良い関係づくりを心掛け、入院時は、安心して治療ができ、早期退院につながるようお互いに必要な情報交換や退院時の過ごし方等相談できる良好な関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、本人家族と話し合い、本人家族の意向や主治医の指示を受けながら、訪問看護師とも連携し、方針を共有し支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	二年に一度救命講習を受け、急変時、事故発生時の訓練を行っている。夜間の急変時対応についてはマニュアルを職員が見られる場所に掲示し、慌てず行動出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回、火災や地震に備えての訓練を行い、非常時に対応できるよう備えている。日中、夜間両方の想定で訓練を行っている。また残念ながら地域住民の協力はコロナ禍のため行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は認知症である前に人生の先輩であることや、病気が進行していく中でも人としての気持ちがある事を忘れず、プライバシーを損ねない言葉のかけ方や対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表わせるように、日々の関わりを大切にし、会話や行動の中で見出せるよう努力している。また、一方的な押し付けはせず、本人が自己決定できるような言葉かけや選択を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴の曜日などある程度決まりはあるが職員の都合を最優先せずにその人、ひとりひとりのペースや思いを大切に希望に沿った毎日が遅れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度移動理容室の利用の際は、本人が希望を伝えたり、また、伝えることが難しい利用者には、こちらからお願いしている。日々の服は本人が自由に選んで着ている方も多い。重ね着してしまう利用者には、その季節や温度に合ったものをそれとなく伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	宅配業者から食材が届き本日のメニューを発表し味付けや調理方法を考えながらホールテーブルに卓上コンロを用意し調理も共に行っている。出来た食事は利用者と共に会話をしながら楽しみの一つとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の温度表に水分量や摂取量を記録している。水分量、食事が少ない利用者には直ぐに下膳せずゆっくりでも摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、口腔ケアシート、舌ブラシ等各々に合った支援をしている。洗浄剤の用意は職員が行っている。毎日昼食後には口腔ケア用のコップは消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助の必要な方(訴えない方)は時間で誘導している。軽介助の必要な方には声掛けをし本人の力を発揮出来るような支援を行っている。夜間もトイレ誘導を行ったりポータブルトイレを利用し排泄の支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	廊下を歩く、体操を日課とし水分量(毎日牛乳摂取)にも気を付けている。排泄チェック表を活かし、便秘傾向にある利用者には、医師に相談のもと、内服薬で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日と時間はほぼ決まっているが、利用者は入浴を楽しみにしていると思う。また、季節に合わせてゆず湯や、菖蒲湯、入浴剤を使用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠できるように日中の活動を無理なく促し、規則正しい生活を支援している。本人の体調や気分によっては日中でも休んで頂く事もある。褥瘡の出来る可能性のある利用者には低反発マットを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬している薬について説明書で詳しく確認できるようになっている。服薬の変更や症状の変化があった時は、職員間で情報共有し服薬ミスがないよう配慮している。錠剤がのめない利用者には粉末にし、飲みやすい形で提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理手伝い、食器拭き、洗濯物干し、タタミ等出来る事が継続出来るよう支援している。活動や会話を通して笑顔が見受けられる事が多い。出来ないと決めつけず多方面からアプローチしながら支援につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で戸外に出かける機会はめっきり減ってしまったが、天気の良い日は散歩に出たり、芝生の庭で日光浴やゲームお楽しんだ。時々ドライブもして気分転換が出来るように支援した。また、緊急事態宣言解除後に全体での外でのレクリエーションは どの利用者も格別の笑顔だった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、お小遣いは金庫にて管理しているが、必要な時は用意できることを伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望がある時は、施設の電話を使用できるように支援している。また、家族や知人からの電話を取り次いでいる。携帯電話を所持している利用者には、掛け方を支援し、電話をかけたいときに使用できるようにしている。絵手紙や手紙のやり取りもおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、季節ごとの掲示物があり、廊下にもイベント時の写真や制作物が飾ってある。玄関前の花壇には季節の花が植えられ芝スペースにはベンチが置かれ日光浴やゲームを楽しむことができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの利用者がホールで過ごす事が多く、それぞれが好きなことを自己決定しすぎしている。また、一人になりたいときは居室で過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具やテレビなどを持ちこみ、居心地良く安心して生活できるように支援している。また、快適な室温で休めるようにこまめに確認している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内には、手すり、玄関には腰掛が設置され、安全に生活できるよう工夫している。またトイレや居室、洗面室にはわかりやすい表示や目印をつけている。ホール内は車いすでも十分動けるよう、テーブルの向きと位置を工夫しスペースを確保している。		